



231-8790

017

サンプル

〈受取人〉

横浜市中区港町1-1  
横浜市都市整備局IR推進課  
横浜IRの方向性(素案)  
パブリックコメント 担当 行

氏名	
住所	〒 -
年齢	(○をつけてください) 20歳未満 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80歳以上 任意回答
性別	(○をつけてください) 男性 女性 任意回答

キリトリ

パブリックコメントに関する注意事項

- いただいた御意見については、御意見の概要とそれに対する横浜市の考え方を取りまとめ、後日公表します。
- いただいた御意見は、横浜IR(統合型リゾート)の方向性の策定に関して参考とさせていただきます。
- 個別の回答はいたしませんので、あらかじめ御了承ください。
- 御意見の提出に伴い取得した氏名、住所等の個人情報は、「横浜市個人情報の保護に関する条例」の規定に従い適正に管理し、御意見の内容に不明な点があった場合等の連絡・確認の目的に限って利用します。

提出方法

提出にあたっては、氏名、住所、年代(20歳未満、20代~70代、80歳以上)、性別、御意見を記載してください。

① 郵送

上のハガキを御利用ください  
切手不要 令和2年4月6日(月)消印有効

② FAX

045-313-9936

③ Eメール

yokohamair\_ikenbosyuu@sic-kk.co.jp

お問合せ先

パブリックコメントに関すること

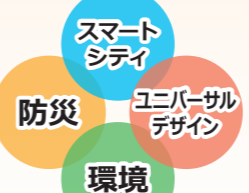
横浜市都市整備局IR推進課  
TEL 045-671-4135  
平日(土日祝日を除く)午前9時~午後5時まで

横浜IRの方向性2

都心臨海部との融合

- 最先端のテクノロジー(技術)を駆使した新しい街のモデル『横浜IR』を、都心臨海部の既存の街の魅力や資源と一体的に整備し、融合していきます。
- 21世紀の日本における新たな開港の地として世界各国の人々を迎え入れ、もてなす、世界から選ばれるデスティネーション(目的地)に相応しい魅力的な都市づくりを進めます。

施設整備の視点

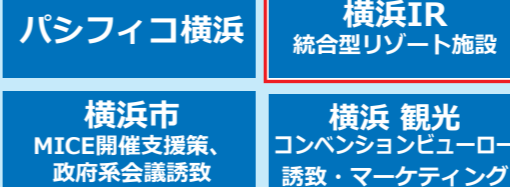


SDGs SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「美しい港の景観形成構想」  
「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」より作成

世界中から観光客・会議参加者等を誘客



オール横浜での観光MICE推進体制

- 観光事業者 交通事業者 MICE事業者 宿泊事業者 関連事業者(イベント運営等)

横浜の観光・経済にイノベーション



IRの効果が  
郊外部を含む  
市全体に波及

横浜IRの方向性3

オール横浜で  
観光・経済に  
イノベーションを!

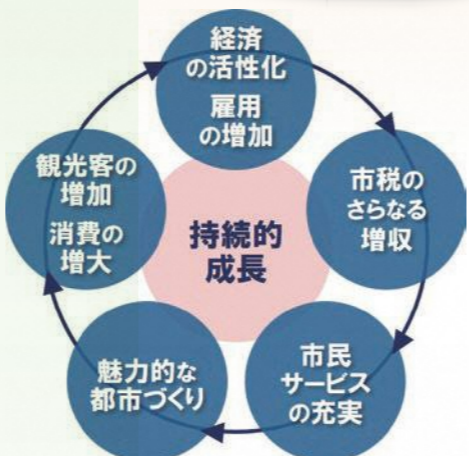
まちづくりのコンセプト

- 『横浜IR』を都心臨海部と一体的に整備し、融合
- 21世紀を象徴するような新しい横浜の都市デザイン・景観形成
- 最先端技術を駆使したスマートシティ、環境、防災、ユニバーサルデザインなど『未来の街のショーケース』

将来にわたる

市民の豊かな暮らし

- 福祉 子育て 医療 教育



観光の振興  
インバウンドを含むIRへの訪問者数  
2,000万 ~ 4,000万人/年  
(うち国内観光客割合: 66~79%)

IR区域内での消費額  
4,500億 ~ 7,400億円/年

地域経済の振興  
経済波及効果(間接効果含む)\*  
建設時: 7,500億 ~ 1兆2,000億円  
運営時: 6,300億 ~ 1兆円/年

雇用創出効果(間接効果含む)\*  
運営時: 77,000 ~ 127,000人/年

財政の改善への貢献  
地方自治体の増収効果\*  
820億 ~ 1,200億円/年  
(納付金収入、入場料収入、法人市民税、固定資産税、都市計画税)

横浜IRの基本的な考え方(令和元年10月)より抜粋  
効果(数値)については、事業者から提供された情報です。  
なお、\*印の数値については、それらの情報を基に、委託先の監査法人が整理・確認したものです。  
区域整備計画策定までに明確化します。

魅力ある都市/横浜のさらなる飛躍

- 観光客増・MICE参加者増(宿泊者増)
- IR利用者が市内・県内を周遊  
コンシェルジュが観光、体験、買い物コーディネート
- 周辺地域の既存の魅力や資源を磨き上げ相乗効果によって賑わいUP
- 長期滞在によって観光消費額UP
- 広がる経済効果  
ビジネスチャンス拡大、新産業創出、雇用機会の増等
- 観光客の満足度向上に向けた再投資  
施設、サービス
- 魅力向上によるさらなる観光客増  
リピーターの増

拡がり循環する効果

- 世界最高水準のスケールとクオリティを有する『横浜IR』と、これまでつくり上げてきた都市としての魅力や資源を融合し、世界の観光・MICE都市、文化芸術創造都市としての横浜の新たな魅力や資源を創造するとともに、その相乗効果により、**横浜の観光・経済にイノベーション(革新)をもたらして、横浜を世界から選ばれるデスティネーション(目的地)へと導いていきます。**
- また、その効果を都心臨海部はもとより、横浜市域全体、さらには日本各地に拡げていきます。

横浜IRの方向性1

世界最高水準のIRを実現

- ビジネスからレジャーまで、大人から子どもまで、外国人でも日本人でも、幅広い客層が楽しめる非日常的で印象的な空間を有する都市型リゾートを目指し、**世界の人々が日本に行ってみよう!日本に行くなら横浜に行ってみよう!**と思われる世界最高水準のIRを実現します。
- 周辺地域との一体的な観光振興により、『横浜IR』から市内・県内はもとより日本各地の魅力を発信し、送客することができる**日本のゲートウェイ(玄関口)を目指します。**

MICE (国際会議場・展示場)

我が国において、これまでにないような国際的な会議や世界規模の産業見本市等を展開。新たなビジネスの起爆剤として、経済・観光にイノベーション(革新)を創出。

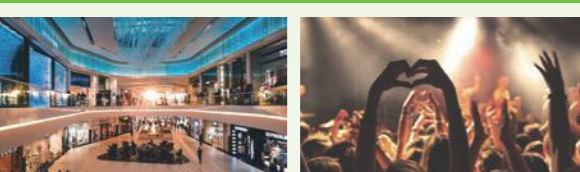


多彩なホテル群

国際競争力のある広さ、設備、サービスなど、ビジネス客やファミリー、富裕層など来訪者の宿泊需要に適切に対応できる規模・クオリティを有する。5つ星ホテルのほかファミリー層も宿泊できる複数のホテルを備える。



レストラン・ショッピングモール エンターテインメント施設



民設・民営一体的な整備・運営

魅力増進施設

日本の伝統、文化、芸術、最先端技術、四季折々の自然等の様々な魅力をかっつけないクオリティで発信。世界中の観光客を惹きつけ、リピーターを確保することができる国際的に最高水準のエンターテインメント性のある公演、展示等で提供するとともに、これを通じてまた、アニメやゲームなど日本の魅力を体験してもらう機会を創出。



カジノ

IR関連法令等に則した施設とし、ファミリー層等の主動線とは分離された適切な配置計画やデザインとする。



送客施設

東日本をはじめとした日本各地の観光名所にインバウンドを送り出す日本の拠点・ゲートウェイ(玄関口)として、また世界と国内各地をつなぐ交流のハブとして、国内各地の魅力をショーケースとして紹介。各交通機関を結ぶバスや、ワールドクラスのクルーズポートを生かした「ターミナル機能」を備える。



横浜IR実現への取組の背景

(1) 現状と課題

- 本市は、人口減少社会への転換期を迎え、超高齢社会が進展し、生産年齢人口の減少や老年人口の増加による消費や税収の減少など、経済活力の低下や厳しい財政状況が見込まれています。

(2) 横浜観光 MICE の現状

- 過去5年間の訪日外国人の延べ宿泊者数の伸び率は、全国平均で2.4倍、東京都は2.0倍に対し、本市は、1.7倍に留まっています。
- 横浜市は過去5年間の平均で、約8割以上が日帰り観光客であり、宿泊客が少ない状況です。

(3) 将来を見据えた横浜市の取組

- 将来にわたり市民の方々の豊かな暮らしを維持していくために、戦略的な企業誘致、市内中小企業振興、商店街活性化、SDGs未来都市、災害に強い都市づくりなど、様々な事業に取り組んでいます。これらの施策の一つがIRです。

